

2021年9月果実概況

北日本日本海側は多照、少雨。東日本太平洋側と西日本は寡照だった。

9月の天候は平年同様曇雨天の日が多く、気温は平年より高いものの、残暑から涼しくなるまでの期間が短かった。中旬に台風14号が九州北部から四国・近畿、太平洋へと抜けて温帯低気圧に変わった。「お彼岸」以降は気温も下がらず、暑い日が続いた。

果実全体の入荷量は前年比114%、価格523円(前年比91%)。上旬は本年産の「極早生みかん」の販売が始まり、「西村早生柿」「たねなし柿」は前年より若干早く始まった。「ぶどう」は露地物のシーズンに入り、出荷量が多いものの、前進出荷と気温高が続いた影響で着色遅れが目立ち、平年程多くはない。りんごは「サンつがる」中心の販売が進み、順次「極早生系」の出荷が始まった。桃の入荷量は少なく、梨は上中旬に「豊水」、中旬以降には「あきづき」へと変わった。各品目、前年並み～上回る入荷となり、価格安に転じるも、みかん類以外は前年比高。

みかん類は、入荷134%、価格291円(90%)。「ハウスみかん」は前進出荷により平年より早く切り上がり、「グリーンハウスみかん」へ移行。「極早生みかん」は9月上旬に宮崎産、中旬には熊本・福岡産が開始した。7月までの干ばつの影響を受け、小玉傾向も前年に比べ各地豊作基調にある。緊急事態宣言中のため、量販店での販促活動は進まず。

りんご類は、入荷104%、価格315円(95%)。「つがる」中心に、8月旧盆以降の降雨と気温低下により着色進度は早く小玉比率高め。青森・岩手産は中旬にピークを迎える。長野産「秋映」「シナノドルチェ」「シナノリップ」、岩手産「紅いわて」は春先の低温から生産量減。

日本なし類は、入荷117%、価格372円(73%)。福島産「幸水」は前進出荷のためほぼ終了した。「豊水」は福島・新潟産は春先の天候不良により数量減も、栃木・茨城産ともに内部障害で少なかった前年以上の入荷となった。気温は高いものの過ごしやすい陽気が続いたことで荷動きは鈍い日が続いた。

かき類は、入荷180%、価格384円(96%)。「西村早生」「刀根早生」とともに8月中旬以降の低温を受け、着色先行で推移した。前進傾向と豊作基調から入荷は前年に比べ大幅増。価格は前年安でスタートしたものの、販売環境は悪くなかったことからほぼ前年並みで落ち着く。

もも類は、入荷113%、価格670円(91%)。山形・福島産が中心。生育前進から上旬は多いものの、中旬以降は前年に比べ少なく早い切り上がりとなった。また8月旧盆以降曇雨天が続いたことから高糖度の発生率も低く、下等級が増え価格は軟調も「お彼岸」までは引合いは強かった。

すもも類は、入荷96%、価格680円(98%)。山形・長野産中心の販売。前進出荷が続く、「秋姫」中心に前年に比べ出荷量は少なく、引合いは強めに進んだ。「お彼岸」以降は引合い弱まるものの、出荷量も減少。

ぶどう類は、入荷100%、価格1,523円(108%)。各地「シャインマスカット」の作付面積は増加するも、天候不順から出荷量は伸び悩む。輸出需要で引合い強く、単価・荷動きは堅調に動く。黒系品種の生産量は減少。前年は長雨からの高温となり病害発生があったが、本年の生育は概ね順調。

いちじくは、入荷 129%、価格 834 円(84%)。8月の台風の影響と旧盆以降の長雨の影響により、生育遅れとなるが、8月末から天候回復して生育が進み、正品率が上がることで9月上旬に入荷量は集中した。台風以降収穫量が伸び悩んでいたが、出荷量が多くなったことで単価が下がった。

くりは、入荷 127%、価格 627 円(102%)。目立った天候災害がなく、生育は良好。主力茨城産は生育前進を受けて、5日早い9月上旬にピークを迎えた。近年出荷量が少なく、量販店の売り場縮小されていたことから引合いは弱い。

メロン類は、入荷 98%、価格 547 円(96%)。8月の長引く曇雨天により正品率は平年レベルに達しない中、上旬の入荷量は多く、引合いは中旬まで強く進む。月末に向かっては業務需要が停滞し、また下等級が多く販売苦戦となるが単価は横ばいで推移。